

2010年

日中友好促進に大きな役割を果たしたことによる「中日友好貢献賞」が当協会に授与されることになり、五月に来日した温家宝首相より辻井喬会長に楯と証書が手渡された。上海万博が半年にわたって開かれ、開催を祝して辻井喬会長が作った詩「壽歌」を狂言の野村萬、京劇の尚長栄両氏が上海万博会場で朗誦。九月に尖閣諸島中国漁船衝突事件が起き、下半

期の日中交流に大きな影響が生じた。国内では菅直人内閣が発足。二〇一〇年の主な交流

●1月 崔天凱大使離任。中国伝媒大
学訪日視察団(齊勇峰、賈旭東、陳小
申、孫曉平、齊驥の諸氏) 来日。
●2月 中国人民対外友好協会代表団
(陳昊蘇団長、秦昭、許金平、文元衍、
王曉萍、田書翰、閔浦、劉夢妍の諸氏)
来日。
●3月 チチハル遺棄化学兵器の被害
者らと日中友好七団体の代表者が懇談。



長年にわたる日中友好促進への貢献が顕彰され、中国人民対外友好協会と中日友好協会から「中日友好貢献賞」が授与された。来日した温家宝首相(右)から貢献賞を贈られる辻井喬会長



李小林会長(右手前)を団長とする中国人民対外友好協会代表団。浅田次郎(左手前)原作ドラマ「蒼穹の昴」に出演した股桃(右手前二)、周一困(同三)両氏が団員として来日した。右奥は中日友好協会の袁敏道秘書長

—11月10日 東京

程永華大使着任。尚長栄氏「曹操と楊修」観劇団(佐藤純子、木村美智子、鈴木洋子、阿部まさ子、佐藤恵子、小暮貴代らの諸氏) 訪中。唐家璇中日友好協会名誉顧問が来日、日中友好七団体が歓迎レセプション。日本青年訪中代表団(西村智奈美総団長)一行四七二名、当協会から文化芸術分団(佐々木愛団長、河原勝広、小野寿樹、櫻原藍、柴田華奈、鈴木みもろ、鈴木悠美、林裕紀子、近藤紗代、松浦淑江、渡辺恵理子、櫻井章喜、矢部修治、中島里子、小林悠記子、渡邊美保、足立圭、三浦枝里子、高橋久美子、豊泉豪、佐々木範久、大谷徳樹、桑原朋宏、村田幸恵、村田香織、松田太郎、今田昌宏、権藤朱音、栗本佳奈、波多一穂、塩田宇宙、池野文子、草刈久美子、田中祐太、金子智亮、山崎浩司、村井浩孝、伊藤照鏡、小暮貴代、竹本リサらの諸氏)一行四十六名訪中。上海市文学芸術界連合会代表団(沈文忠団長、戴小京、姜学貞、劉禱訥、秦焱の諸氏) 来日。

●4月 日本書道界困基愛好者訪中団(大井錦亭団長、高際翠邦、友井幸雄、南八郎、木曾梅邦、田中悦男、小阪裕二秘書の諸氏) 訪中。中国公共文化事業代表団(王

秀雲団長、王珍珍副団長、張雅琴秘書長らの諸氏) 一行三十名来日。
●5月 「中国各界代表団揮毫足跡展」(藤田觀光など主催) 北京で開催。温家宝首相が来日、日中友好七団体が歓迎夕食会。日中文化交流協会が中国人民対外友好協会と中日友好協会から「中日友好貢献賞」を受賞。温家宝首相が「中日文化界人士懇話会」主宰、辻井喬会長らが出席。

●6月 「中国の扇面画」展、渋谷区立松濤美術館で開催。中国美術館代表団(殷福団長) が開幕式に出席、当協会が協力。辻井喬会長が上海市文学芸術界連合会の招きで上海万博を訪問、横川健専務理事、松田一彦氏が同行。上海万博「ジャパン・ウィーク」で、能楽師野村萬氏(当協会顧問)と京劇俳優尚長栄氏(中国戯劇家協会主席)が「壽歌」(辻井喬作詩)を朗誦。中国文学芸術界連合会代表団(覃志剛団長、高希希、呉為山、趙平、苟嬋嬋の諸氏) 来日。神田さち子氏の一人芝居「帰ってきたおばあさん」長春、ハルビンで訪中公演。

●7月 日中文化交流協会代表団(辻井喬団長、井上弘、横川健、玉村豊男、内田隆三、松田一彦の諸氏) 訪中。日本経済界訪中団(杉田亮毅団長・日本経済新聞社社長、中野暁秘書長、宮原賢次住友商事名誉顧問、池田弘一アサヒビル相談役、敷土文夫JFEホールディングス相談役、森清一エムシー社長、奥谷禮子ザ・オール社長、長谷川潔日本経済新聞社顧問の諸氏) 訪中。



中国音楽家代表团を招き、歓迎のついで「中国音楽の今を語る」を開催。ヌストラテ・ワジディン団長(左三)が「ウイグル・ムカム音楽」、王中山氏(左二)が「中国古筝の伝統と発展」、王燕氏(左一)が「オペラから感じた悠久の友情」と題して講演し、その後、作曲家の池辺晋一郎氏(右一、常任理事)と座談を行なった。協会会員をはじめ約200名が来場し、熱心に耳を傾けた —10月21日 東京



「生態と家園」をテーマに北京ビエンナーレが開催され、日本を含む85カ国から535名の芸術家が参加した。劉大為中国美術家協会主席(左二)と歓談する、(右へ)馬越陽子、宇佐美圭司、小林裕児、宇佐美爽子、絹谷幸太(左一)の諸氏 —9月20日

文学、演劇、音楽、美術などの分野から青年四十六名が北京、貴州を訪問。北京市国際芸術学校の学生に日本の書道を披露した —三月二十二日



◎12月「日中韓・東アジア文学フォーラム」(同フォーラム実行委員会など主催、中国作家協会など共催)北九州市で開催、辻井喬、島田雅彦、高樹のぶ子、鉄凝、莫言らの諸氏が出席。藤沢市轟耳記念広場に中国語石碑が完成、除幕。

日中友好七団体が丹羽宇一郎大使赴任 贈送会、宮本雄二前大使帰任歓迎会を開催。日本作家訪中団(佐藤洋二郎団長、稲葉真弓、山本雅男、平田俊子、伊藤氏貴、杉本まり子秘書の諸氏)が訪中。
◎8月 中国文学翻訳者の国際シンポジウム(中国作家協会主催、当協会が協力)北京で開催、岸陽子、飯塚容両氏が出席。日本少年野球選手団(松井茂久団長)一行四十名が訪中。
◎9月「日中青年作家会議」(中国社会科学院外国文学研究所主催、当協会な

ど後援)北京で開催、日本代表团(中村文則団長)が出席。作家の横松心平氏がシルクロード各地を取材訪問、当協会が協力。元文化部副部長・劉徳有氏の写真展「わが人生の中日友好交流」劉徳有所蔵アルバムより(当協会など後援)開催、開幕式に辻井喬会長が出席。「第四回中国北京国際美術ビエンナーレ」中国文学芸術界連合会、中国美術家協会など主催)開催、開幕式に洋画家の入江観氏(当協会常任理事)はじめ浅野均、池田良二、宇佐美圭司、

絹谷幸太、小林裕児、馬越陽子、小暮貴代らの諸氏が出席。
◎10月 平頂山事件生存者と日中友好七団体の代表者が懇談。坂東玉三郎氏、昆劇合同公演「牡丹亭」東京で上演。中国音楽家代表团(ヌストラテ・ワジディン団長、田曉耕副団長、王中山、王燕、李玉龍の諸氏)来日、東京で歓迎の集い「中国音楽の今を語る」民族伝統現代」開催。日本演劇家訪中団(水谷内助義団長、斎藤憐、結城孫三郎、山口果林、小阪裕二秘書の諸氏)訪中。

日本青年上海万博訪問団(菊田真紀子総団長)一行七〇七名、当協会から(中野暁、池田尚広、荒木佳和、安藤直仁、石原傳士、井上雅貴、江並史朗、江利川俊明、遠藤慎一、柏木大吾、須賀博之、大黒光紘、高倉弘行、高野由邦、高橋秀和、田中越、中森良樹、西井正光、正木聡、増淵博史、渡邊朋来)の諸氏一行二十一名が訪中。
◎11月「日中国際交流記念第二回友好の美展」(女子美術大学付属高・中学校、中央美術学院附中主催、当協会協力)東京で開催、開幕式に中央美術学院附属中等美術学校代表团(許娟団長)が出席。中国人民対外友好協会代表团(李小林団長、袁敏道、殷桃、周一團、鄭李旦の諸氏)来日。日中美術シンポジウム「美術とグローバルリズム?」(当協会、美術評論家連盟、中国美術家協会主催)開催、中国美術家代表团(邵大箴団長、張曉凌、丁寧、杭間、蘭瑩の諸氏)が出席。七三一部隊被害者遺族らと日中友好七団体の代表者が懇談。

2011年



未曾有の大震災に際し、中国の各団体、個人から多くの見舞状が寄せられた。役員会では、困難な状況のなか、協会が積み重ねてきた交流をいかに持続し、発展させるかが話し合われた

—2011年6月16日 東京

井上靖元会長息子息の井上修一(右二)、甫壬(左二)夫妻と息女の浦城幾世(中央)、恒雄(左一)夫妻。井上元会長と親交の深かった作家巴金氏の息女李小林氏(右一)を訪ね、二人にまつわる思い出の数々を語り合った

十一月十四日 上海



三月十一日の東日本大震災で多くの貴い命が失われた。当協会も組織や事業の面で大きな影響を受けた。創立五十五周年を記念する文化講演会を開き、金子兜太、辻井喬、黒井千次、篠田正浩の諸氏が四回にわたって講演した。八月一日、当協会は法人化し「一般財団法人 日本中国文化交流協会」となった。この年、野田

佳彦内閣が発足、円が戦後最高値一ドル七十五・三二円に。
〇一〇一年の主な交流
◎1月 中国政府文化代表団(蔡武文化相)が「第三回日中韓文化相フォーラム」出席のため来日、辻井喬会長、佐藤純子代表理事、横川健専務理事、中野暁常任理事事務局長らと会見。
◎3月 未来医学研究会協議団(森清一未来医学研究会副会長・エムシー社長、安田章夫同研究会理事・ソニー先



国务院発展研究中心の林家彬研究員(右二)から中国の経済発展の状況などについて説明を受ける團紀彦団長(右一、評議員)ら日中文化交流協会代表団一行

—7月7日 北京

端マテリアル研究所統括部長、中野暁常任理事事務局長の諸氏)訪中。
◎4月 文化講演会で金子兜太氏が「荒凡夫」と「生きものの感覚」と題し講演。
◎5月 日中文化交流協会創立五十五周年記念「写真で見える日中文化交流の五十五年」展(当協会、東京中国文化センター)主催。開催。文化講演会で辻井喬氏が「日中文化の差違と同一性」と題し講演。日本出版訪中団(団長・

相賀昌宏小学館社長、下中美都平凡社出版部長、大下健太郎美術出版ホールディングス社長、岡野秀夫くろしお出版副社長、小阪裕二秘書の諸氏)訪中、北京魯迅博物館で開催された「魯迅の言葉」中日二カ国語出版座談会(平凡社、三聯書店、同博物館主催)に出席。
◎6月 日本「中国美術鑑賞」訪中団(入江観団長、栗本隆朗、松崎キミ代、中山晴美、鮫島明子、出町千鶴子、杉本勝、志田光、岡村美紗子、大和久雅子、貴堂薫、吉元れい花、花井陽子、加藤卓司、加藤真理子、萩原令子、本庄俊一、中野暁秘書長、竹本リサ秘書の諸氏)訪中。日中文化交流協会代表団(金山茂人団長、樽松三郎、山岸倫弥、宮園敦子、吉野まや秘書の諸氏)訪中、上海市文学芸術界連合会の招き。文化講演会で黒井千次氏が「古い進む今日」と題し講演。中国作家代表団(陳崎嶇団長、劉憲平、李鵬、李浩、鄭小瓊、李錦琦の諸氏)来日、東京で「中国の小説家、詩人との交流会」(当協会主催)開催。
◎7月 日中文化交流協会代表団(團紀彦団長、近藤史人、波頭亮、池坊由紀、田中孝幸、小暮貴代の諸氏)訪中、中国文学芸術界連合会の招き。日本経済界訪中団(杉田亮毅団長・日本経済新聞社社長、生田正治商船三井最高顧問、野村明雄大阪ガス相談役、柏原康夫京都銀行会長、齋藤宏みずほコーポレート銀行名誉顧問、残間里江子キャンディット・コミュニケーションズ会長、長谷川潔日本経済新聞社客員、中野暁秘書長、池田尚広秘書ら)訪中。

◎8月 「日本中国文化交流協会」から「一般財団法人 日本中国文化交流協会」に移行。中日友好協会副会長林氏逝去。福岡開催の世界少年野球選手権大会（日本少年野球連盟主催）に北京大成中学チーム（丁常青団長）一行二十四名が参加、当協会が協力。日本少年野球選手団（崎地欣則団長）一行三十九名訪中。新潟で「写真で見る日中文化交流の五十五年」展開催（中国駐新潟総領事館、当協会、東京中国文化センター主催）、開幕式に王華駐新潟総領事、横川健当協会専務理事らが出席。



震災後、最初に迎えた代表団は中国作家代表団だった。京都の寂庵に瀬戸内寂聴氏（手前左）を訪ねた後列左から龍一、李錦琦、陳崎嶸団長、鄭小瓊、李浩、劉憲平の諸氏

日本中国文化交流協会創立55周年記念



「写真で見る日中文化交流の55年展」。日中文化交流協会所蔵の写真90点余、井上靖元会長をはじめ本誌に掲載した作家の署名原稿、文物展のポスターなどを多数展覧した。辻井喬会長（左三）、黒井千次理事長（右三）、横川健専務理事（右一）、東京中国文化センターの石軍センター長（左二）、石永菁副センター長（左一）、張忠志次長（右二）

—5月18日 東京

◎9月 文化講演会で篠田正浩氏が「ゾルゲ・尾崎の昭和」と題し講演。日本文化界訪中団（篠田正浩団長、嵐山光三郎、筒井清忠、中島良成、谷川建司、戸室道子の諸氏）訪中。未来医学研究会代表団（岡野光夫団長、岡野早百合、中野暁秘書長、森清一、安田章夫、常徳華の諸氏）訪中。日中文化交流協会代表団（辻井喬団長、坂上弘、横川健、藤原作弥、松田一彦、池田尚広秘書の諸氏）訪中、中国文化部の招き。

◎10月 李小林氏が中国人民対外友好協会会長に就任。中村芝翫副会長逝去。当協会創立五十五周年記念レセプションを開催、栗原小巻当協会副会長が開幕式

を開催、中国人民対外友好協会代表団（陳昊蘇団長、関立形、吳瑞鈞、程海波、張孝萍、徐賜明の諸氏）、中国出版代表団（宋明昌団長、陳毓江、袁亜平、陳英明、錢樹人、李澤弘の諸氏）が出席。日中友好・女声合唱団「黎明」（日置宏江団長）が寧夏、銀川で公演、当協会後援。日本美術家訪中団（松尾敏男団長、入江観副団長、吉井長三、甲野正道、小暮貴代の諸氏）訪中、北京で「中日美術作品著作権保護座談会」に出席。「中国映画週間」（企画運営ムランプロジェクト）に出席。栗原小巻当協会副会長が開幕式

に出席。◎11月 故井上靖会長の遺族、井上修一、井上甫王、浦城恒雄、浦城幾世の諸氏が唐家璇中日友好協会名誉顧問の招きにより訪中。同時期に佐藤純子（当協会理事）、木村美智子（当協会監事）、佐藤祥子、鈴木洋子の諸氏が中国人民対外友好協会の招きで訪中。山東省三菱勞工連誼会代表団（劉連仁氏の遺族ら）が日中友好七団体代表と懇談。日本青少年訪中代表団（江田五月総団長）一行四七四名に当協会から学術研究者分団（安田章夫分団長、大和雅之、堀田宏輔、林浩志、中川和博、松本真寛、岡村哲和、松本徹、平井俊行、黒

現代アートの集まる北京の七九八芸術区を散策する日本文化界訪中団の（右から）筒井清忠、谷川建司、篠田正浩団長、嵐山光三郎、戸室道子、中島良成の諸氏



—九月十五日